

GTECに見る英語Ⅱにおける授業改善報告

A Report on the Class Improvement of English II on the Basis of the Results of GTEC

小野 雄一・長谷川 誠・有坂 顕二・足立 綾

Yuichi ONO, Makoto HASEGAWA, Kenji ARISAKA, Aya ADACHI

1. はじめに

本稿は、従来の英語Ⅱに代わって平成19年度から実施している英語ⅡA、英語ⅡBの授業改善に関する試みを紹介する。大学や高専などの高等教育機関においては、それぞれの授業の成績評価の「透明性・客観性」がますます注目されている。近年はシラバス公開、証拠資料保存等が行われ、担当教員による恣意性は見かけ上抑えられているとされているものの、授業によって身につけた「本当の力」が授業の中で客観的尺度によって測定される機会は専門科目・一般科目を通してほとんどないといってよい。

小山高専では平成18年度から低学年1、2年生においてGTEC (Global Test for English Communication)試験を実施している。本稿はまず平成18年度新入生を対象に実施したGTECに基づく伸長測定の結果を報告する。主なポイントは、Totalスコアにおいて90%近くの学生がスコアが伸びている点と、特にWritingスコアにおいて、学生数および伸長スコアの幅の両面で顕著に現れた点である。

これらのデータを概観した上で、19年度から実施している従来のWritingに代わる授業の概要について述べる。従来の高校課程Writingの趣旨に従った授業から、基本文法の習得に力点を置いた授業に変更したというのがポイントである。

また、今回のGTECの結果を受けて、学習者がReading、Listening、Writingのそれぞれの問題を解いているときの「気持ち」を把握するために、e-learning運営委員会と共同で実施している「因子分析」を行った。その結果、特に大きな伸びが確認されたWritingの問題を解いているときに、Listening、Readingのときと比べて、Totalスコアのとの相関項目が多く、高い相関係

数を示していることがわかった点を報告する。

2. GTECテスト

多くの高専や大学にとって、学生の英語力を客観的・絶対的尺度に基づいて証明するテストで有名なのはTOEIC (Test of English for International Communication)である。このテストは、文部科学省が定める高校課程の学習指導要領の指導範囲を超えているビジネスシーンのテーマなども扱うために、低学年での利用を推進している高専は少ない。今回、低学年における外部業者による英語能力測定試験を導入するに当たって、他高専で導入されているという話を聞く次の3つの外部試験を考慮に入れた。

- ・GTEC (ベネッセコーポレーション)
- ・TOEIC Bridge (国際ビジネスコミュニケーション協会)
- ・ACE (英語運用能力評価協会)

3つのテストの共通点は、継続的に受験することで受験者の英語力の「伸長」を測定することを目的にしている点である。具体的には、学校の定期試験や入試などの「素点」方式とは異なり、最近の評価理論である「項目反応理論 (Item Response Theory)」を採用し、どの回にどの問題を解いても同一のスケールで解析するテストであることを強調している。また、学校単位で受験時期を自由に設定できるなどのオプションがついている。問題形式、受験料などの違いは以下の表1に示す。

	GTEC	TOEIC B.	ACE
問題内容	Reading Listening Writing	Reading Listening	語彙・文法 Reading Listening
出題形式	マークシート (Writingは記述式)	マークシート	マークシート
受験時間	100分(Basic) 75分(Core)	60分	80分
受験料	3000円	4200円	1500円
学習指導要領との関係	配慮あり	記述なし	配慮あり

表1 GTECとTOEIC BridgeとACEの違い

今回の導入にあたって注目したのは、GTECにWriting試験があったことであった。英語Ⅱの授業改善と直接関係するものであった。しかもこの試験が後に述べる空所補充や伝統的な和文英訳方式等ではなく、自分の意見を自由に書かせる自由英作文方式のものであった。この種の試験は一般に客観的な採点に苦勞するものであるが、GTECではこの全答案を海外に送り、数人の資格のあるネイティブスピーカーによって各項目に従って採点するものである。どこまで客観性があるかの検討の余地はあるのだが、少なくとも学内の試験で我々の採点ではとても対応できない内容を含む試験をだったというのあって、多少受験生の金銭的負担はあるがGTECを採用することに踏み切った。平成17年度の導入を検討している時点で、長岡高専がGTEC導入を検討していた以外、関東信越地区では導入実績がなかった。「小山高専が初めてです」という話があったが、現在ではいくつかの高専で導入するに至っている。

GTECの具体的な問題形式については以下の表2に示す。GTECのもう一つの特徴は、高校生の学習状況に合わせて、Advance, Basic, Coreと3種類のカテゴリーが設定されている。高校生のレベルが多様なために、それぞれのレベルに合わせた設定があるということである。特に、文部科学省が指定したSuper English Language High School (SELHI) にて95%以上で指導成果の検証テストとして活用されている。小山高専では、1年生にはCoreを、そして、2年生にはBasicを選択した。

●問題内容

テスト内容	Advanced		Basic		Core	
	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
READING/マークシート式	43	45	36	45	28	32
A 語い語法問題	14	7	12	6	10	5
B 情報検索・概要把握問題	14	14	12	14	10	12
C 要点理解問題	15	24	12	25	8	15
LISTENING/マークシート式	40	25	40	25	32	18
A 写真説明問題(Advanced)	10	6				
イラスト説明問題(Basic・Core)			10	6	8	4
B 会話応答問題	10	5	10	5	8	4
C 課題解決問題	10	8	10	8	8	5
D 要点理解問題	10	6	10	6	8	5
WRITING/自由記述式	1	20	1	20	1	20
意見展開問題 <small>◎文法・語い・構成・展開の採点を別段階で評価します</small>	1	20	1	20	1	20
合計	84	90	77	90	61	70

表2 GTEC出題内容

また、ベネッセコーポレーションでは高校生のデータをもとに、TOEICや英検との比較を行っているが、その表を下の表3に示す。

GTEC	センター試験	TOEIC換算値	英検換算値	高校生の平均スコア
800		709.7	準1級	高3平均 453点
750		657.7	2級	
700		605.7		
650		553.7		
591.4	180-200	492.7		
552.2	170-179	451.9	準2級	
515.3	160-169	413.6		
489.9	150-159	387.1		
463.9	140-149	360.1		
444.1	130-139	339.5	3級	
428.7	120-129	323.5		
408.2	110-119	302.2		
392.5	100-109	285.9		
371.9	90-99	244.4	高2平均 399点	
354.4	80-89	246.2		
343.4	70-79	234.8		
326.6	60-69	217.3		
299.9	50-59	183.5		
292.8	0-49	182.2		高1平均 366点

表3 GTECと他検定等との比較
(<http://gtec.for-students.jp/about/about.htm>)

3. 平成18年度入学生のGTEC結果の推移

平成18年度入学生に対して伸長調査を行って見た。教務係にお願いし、平成18年度（1年次）は6月の前期中間試験期間中に、平成19年度（2年次）は12月の後期中間試験中に実施するように試験時間割を調整していただいた。いわば、1年半の間の英語Ⅰ、英語Ⅱの授業を通じた能力の伸長を見るものとなる。その結果を以下の表4に示す。

	前回からスコアが伸びた学生数	総数	割合(%)	伸長スコアの平均
Total	177	197	89.8	45.4
Writing	185	197	93.9	20.6
Reading	150	197	76.1	13.8
Listening	140	197	71.1	11.0

表4 18年度入学生のGTECスコアの推移

我々が予想していたよりもはるかに上回る「驚異的」と言ってよいほどの伸びであった。常識的に考えて、2年間の学習の成果が出ないわけがないのだが、高専入学後のモチベーションの低下が唱えられる中、不安があったのは否めない。特に高専2年生はいわゆる「中だるみ学年」とか「不安学年」とされ、厚生補導面においても注意を要する学年であり、どれだけの学生が勉学に取り組んでいるのか心配していた。Totalスコア、Writingスコア両方において多数の学生が1年から2年にかけてスコアを落としていると、学会のときに個人的にお話して下さった他高専の先生も実際にいた。

表4で特筆するべきは、WritingがReadingやListeningに比べて伸長スコアの平均が非常に大きいということである。BasicはListening、Readingがともに最高値250点、Writingが160点で算出している中で、このスコアの伸びはとて大きい。また94%の学生がスコアを伸ばしているのは、我々にとっても喜ばしい結果である。各クラスごとの具体的なスコア推移を下の表5に示す。パイロットとして実施した平成18年度2年生2クラス(2C, 2A)と比較しても、スコアの上昇が確認できる。

	Totalスコア	Writingスコア	Writingグレード	Readingスコア	Readingグレード	Listeningスコア	Listeningグレード	wpm
2006 2年(81)	392.0	82.3	2.7	156.3	3.2	153.4	2.2	71.3
C	400.0	84.5	2.8	158.9	3.3	156.6	2.5	71.8
A	382.9	79.8	2.6	153.3	3.2	149.8	2.0	70.6
2007 2年(201)	416.9	101.5	3.5	161.7	3.5	153.8	2.3	73.7
M	402.2	99.4	3.4	158.2	3.2	144.6	1.9	71.4
E	418.2	97.9	3.4	163.4	3.5	156.9	2.5	74.9
D	420.0	98.3	3.4	165.4	3.6	156.2	2.5	75.8
C	443.5	107.3	3.7	167.8	3.8	168.4	2.9	77.5
A	400.8	104.9	3.6	153.3	3.2	142.7	1.7	68.5
2006 1年(207)	370.9	80.7	2.7	147.6	2.9	142.7	1.9	66.3
M	368.0	78.0	2.6	146.3	2.8	143.7	2.0	65.2
E	364.1	77.6	2.6	146.3	2.9	140.2	1.8	66.4
D	377.7	80.0	2.7	151.5	3.3	146.2	2.1	69.3
C	381.4	83.7	2.8	150.0	3.0	147.8	2.1	66.7
A	363.6	84.4	2.8	143.5	2.8	135.7	1.7	63.6
2007 1年(203)	368.1	95.1	3.5	134.6	2.3	138.4	1.8	60.1
M	355.4	93.0	3.4	134.3	2.4	128.1	1.5	59.6
E	351.9	84.4	3.0	131.6	2.2	136.0	1.8	58.9
D	344.0	81.3	2.7	135.8	2.4	127.0	1.5	60.7
C	346.3	90.0	3.1	132.0	2.2	124.3	1.5	57.6
A	367.1	95.2	3.5	134.0	2.3	138.0	1.7	59.9

表5 GTECスコア一覧

4. 英語Ⅱの授業改善

平成17年度に非常勤講師削減の指示を受け、英語科としては4単位分の削減を余儀なくされた。5年生の授業のe-learning授業への変更などの他に、それまで高校の教諭をされていた非常勤講師によるWritingの授業を削減することにし、専任教員も担当することにした。その際に、高校課程Writingの授業経験の豊富な非常勤講師によるいわゆるWritingの授業から、Writingの基本となる基礎文法能力向上を目的とした講義と演習の授業に転換した。

文部科学省学習指導要領に定める「ライティング」の目標は、表現力の向上に焦点を当てていて、具体的にはさまざまな場面に応じて、適切な表現を使えるようにすることを唱えている。

下に学習指導要領「学国語」の「ライティング」における目標を抜粋する。

 目標：情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

さらにライティングの授業における「内容の取り扱い」として定められている項目の一部を抜粋する。

3 内容の取扱い

- (1)聞くこと、話すこと及び読むこととも有機的に関連付けた活動を行うことにより、書くことの指導の効果を高めるよう工夫するものとする。
 (2)言語材料の学習だけにとどめず、情報や考えを伝えるために書くなど、書く目的を重視して指導するものとする。その際、より豊かな内容やより適切な形式で書けるように、書く過程も重視するよう配慮するものとする。

[言語の使用場面の例]

- (ア)個人的なコミュニケーションの場面：
 電話、旅行、買い物、パーティー、家庭、学校、レストラン、病院、インタビュー、手紙、電子メールなど
 (イ)グループにおけるコミュニケーションの場面：
 レシテーション、スピーチ、プレゼンテーション、ロール・プレイ、ディスカッション、ディベートなど
 (ウ)多くの人を対象にしたコミュニケーションの場面：本、新聞、雑誌、広告、ポスター、ラジオ、テレビ、映画、情報通信ネットワークなど
 (エ)創作的なコミュニケーションの場面：
 朗読、スキット、劇、校内放送の番組、ビデオ、作文など

[言語の働きの例]

- (ア)人との関係を円滑にする：
 呼び掛ける、あいさつする、紹介する、相づちを打つ、など
 (イ)気持ちを伝える：
 感謝する、歓迎する、祝う、ほめる、満足する、喜ぶ、驚く、同情する、苦情を言う、非難する、謝る、後悔する、落胆する、嘆く、怒る、など

(ウ)情報を伝える：

説明する、報告する、描写する、理由を述べる、など

(エ)考えや意図を伝える：

申し出る、約束する、主張する、賛成する、反対する、説得する、承諾する、拒否する、推論する、仮定する、結論付ける、など

(オ)相手の行動を促す：

質問する、依頼する、招待する、誘う、許可する、助言する、示唆する、命令する、禁止する、など

これらの状況、目的に対応するための英語表現力を養成する教科書は、必然的に基本文法に関する内容は縮小せざるを得ない。おそらく、基本文法はある程度習得済みであるという前提の教科書製作となっているものと思われる。最終ページ付録に、ある出版社製作の代表的なライティングの教科書のコンテンツおよび進捗計画表の一部を紹介する。

これを見ると、まず高校課程のライティングの標準授業が3単位ないし4単位であることがわかる。つまり、年間授業時間数90～120時間を想定したカリキュラムになっている。ちなみに、小山高専英語Ⅱの総時間数は中間試験を入れて2単位分(履修単位60時間)であることを考えると、全く同じ内容を実施するのは無理である。また、この教科書を活用している宇都宮の進学校の教諭に話では、この教科書を使う前の1年次に「基礎文法の教科書を終わらせている」という。現実には多くの高等学校が総合英語を目指す高校課程英語Ⅰ、英語Ⅱとは独立して文法事項を体系的に学び、これらを生かすようにライティングの授業を行う、というイメージの授業運営を行っているようである。

平成18年度本校を退職された非常勤講師の藤田貞夫先生は、「小山高専のようなカリキュラムの学校では、英語Ⅱの中で文法の定着を図るべき」、そして、「教科書もできるだけグラコン(Grammar-Based English Construction)的なライティング教科書がよい」という助言をなさっていた。基本的な知識抜きに状況に応じた表現力育成というのは非現実的であるというの

はもったもである。そこで、本校の授業では体系的な文法知識の習得をまず本校英語Ⅱで扱うべきという目標を立てることとした。

また、非常勤削減の影響で、1単位分担当の教員が出た。そこで、17年度までの英語Ⅱ（通年2単位）を半期ずつの英語ⅡA（前期1単位）、英語ⅡB（後期1単位）という授業に変更し、半期担当も可能なものにした。授業計画は全学科統一とし、授業内容は「文法の習得」を大きな目標として、その上で少しでも学習指導要領の目標に近づけられるようにすることとした。

教科書はグラコン的な色彩の強いライティングの検定教科書を採用したが、随時プリント、参考書、豆テスト等による演習を行い、教科書の中の文法事項の補足に努めるようにした。

学生たちの反応は、総合英語の英語Ⅰのように、読んだり話したり「楽しい」というものではない。文法苦手で困る学生もいたが、繰り返し演習を重ねるうちに次第に慣れていっているように思える。それまでの総合英語の授業で文法事項のみに大きな時間を裂くことは難しく、文法項目を体系的に学ぶ機会は少なかった。教科書の特に前半部分は、文の種類、基本5文型、時制関係の基本事項にあたる部分だが、自由英作文の中で必ず使うものであるという意識付けを行い、学ばせていった。学生による授業評価を見る限り、「更なる関心」、「更なる学習意欲」につながっているかどうかははっきりわからないが、GTECの結果を見る限り、単純な文レベルであったとしても、多少は書けるようにはなっているものと思われる。

5. 因子分析

今回のGTECの結果を受け、我々は学生がReading、Listening、Writingの各パートの問題を解いているときの学生たちの「気持ち」はどのようなものなのかという根本的な疑問を抱いた。この問題について何か手がかりが見つければと思い、平成19年度2年生を対象に「気持ち」に関するアンケート調査を行い、簡単な因子分析を行ってみた。3つのパート共通の25の質問項目を設定し、それぞれのパートによって優位な差が出るか、また、それぞれの項目とGTECスコア

に優位な相関が見られるかという観点で統計をとってみた。

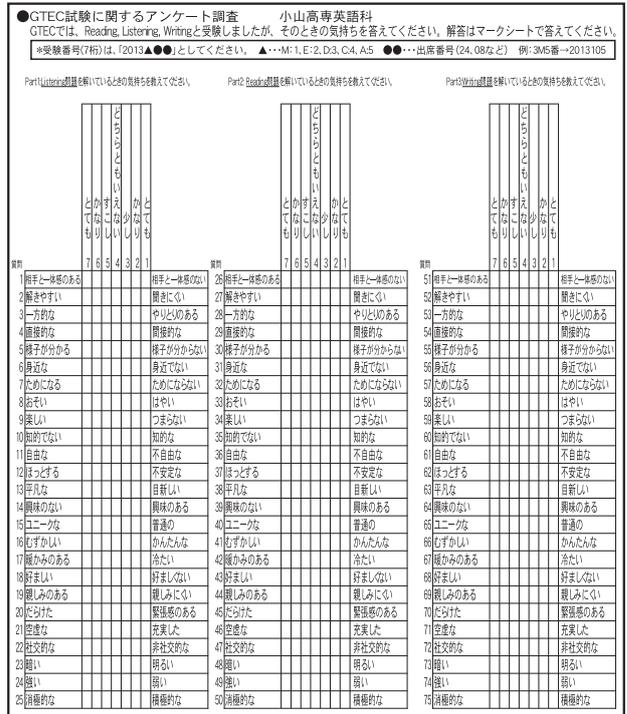


表6 GTECアンケート調査

各項目の平均を並べ替えたものを表7に、各項目とGTECスコアとの相関を調べたものを表8に示す。

Listening	Reading	Writing	
16 むずかしい 3 一方的な	28 一方的な	66 むずかしい	4.423 4.399 4.367 4.337
13 平凡な	41 むずかしい	53 一方的な	4.315 4.228 4.202
7 ためになる 21 空虚な 23 暗い	46 空虚な 48 暗い	73 暗い 63 平凡な 71 空虚な	4.136 4.132 4.109 4.101 4.096
25 消極的な	38 平凡な	54 直接的な	4.090 4.089 4.066 4.036 4.024
24 強い	50 消極的な 29 直接的な	61 自由な	4.000 3.994 3.988 3.988 3.982 3.958 3.953 3.953
4 直接的な	30 様子が分かる 32 ためになる 36 自由な	60 知的でない	3.952 3.940 3.939 3.935 3.935
10 知的でない	49 強い	65 ユニークな 56 身近な	3.929 3.923 3.922 3.911 3.903 3.899 3.893 3.891
5 様子が分かる	43 好ましい	74 強い 68 好ましい	3.877 3.877 3.862 3.858 3.855 3.851 3.851
14 興味のある 15 ユニークな	44 親しみのある	72 社交的な	3.845 3.821 3.811 3.811 3.796
22 社交的な	35 知的でない 45 だらけた	75 消極的な 64 興味のある	3.766 3.764 3.760 3.757 3.756 3.756 3.754
20 だらけた	27 解きやすい 42 暖かみのある	69 親しみのある	3.749 3.738 3.722 3.690 3.659 3.645 3.634
2 解きやすい	26 相手と一体感のある	55 様子が分かる	3.625 3.598 3.562 3.560 3.521 3.509 3.497 3.467 3.455 3.361 3.280
11 自由な	31 身近な	52 解きやすい 62 ほっとする 58 おそい	
17 暖かみのある 6 身近な 12 ほっとする		51 相手と一体感のある	
18 好ましい 1 相手と一体感のある 19 親しみのある 9 楽しい 8 おそい			

表7 各項目の平均

この表から見えるWritingを解いているときの心的傾向のいくつかを箇条書きにする。

- Writingが一番「難しい」と思っている
- Writingが一番「直接的」と思っている
- Writingが一番「だらけている」
- Writingが一番「自由」だと思っている

	Listening		Reading		Writing	
	TOTALとの相関係数	Listeningとの相関係数	TOTALとの相関係数	Readingとの相関係数	TOTALとの相関係数	Writingとの相関係数
1 相手と一体感のある	0.24 *	0.24 *	26 0.12	0.11	51 0.22 *	0.12
2 解きやすい	0.05	0.33 *	27 0.22 *	0.27 *	52 0.23 *	0.26 *
3 一方的な	0.03	-0.04	28 0.05	0.04	53 0.08	0.06
4 直接的な	0.11	0.13	29 0.17 *	0.15	54 0.24 *	0.19 *
5 様子が分かる	0.15	0.20 *	30 0.14	0.11	55 0.22 *	0.17 *
6 身近な	0.17 *	0.18 *	31 0.22 *	0.17 *	56 0.24 *	0.20 *
7 ためになる	0.11	0.05	32 0.19 *	0.16 *	57 0.25 *	0.19 *
8 おそい	0.04	0.07	33 0.19 *	0.20 *	58 0.07	0.00
9 楽しい	0.15	0.08	34 0.25 *	0.26 *	59 0.23 *	0.19 *
10 知的でない	-0.03	-0.09	35 0.03	0.07	60 0.04	-0.06
11 自由な	0.24 *	0.26 *	36 0.18 *	0.19 *	61 0.10	0.07
12 ほっとする	0.19 *	0.15	37 0.14	0.18 *	62 0.10	0.11
13 平凡な	0.07	0.03	38 0.03	0.04	63 0.01	-0.01
14 興味のある	-0.01	0.00	39 -0.01	-0.01	64 -0.07	-0.04
15 ユニークな	0.09	0.10	40 0.08	0.03	65 0.18 *	0.18 *
16 むずかしい	-0.17	-0.20 *	41 -0.01	0.01	66 0.03	0.01
17 暖かみのある	0.18 *	0.19 *	42 0.19 *	0.19 *	67 0.22 *	0.19 *
18 好ましい	0.19 *	0.24 *	43 0.23 *	0.20 *	68 0.23 *	0.17 *
19 親しみのある	0.17 *	0.20 *	44 0.19 *	0.13	69 0.28 *	0.22 *
20 だらけた	-0.17 *	-0.23 *	45 -0.20	-0.11	70 -0.13	-0.09
21 空虚な	-0.10	-0.13	46 -0.04	-0.02	71 -0.08	-0.09
22 社交的な	0.14	0.15	47 0.25 *	0.20 *	72 0.12	0.12
23 暗い	-0.13	-0.10	48 -0.13	-0.10	73 -0.09	-0.18
24 強い	0.05	0.11	49 0.09	0.17 *	74 0.01	-0.08
25 消極的な	-0.10	-0.13	50 -0.05	0.03	75 -0.07	-0.15

* $t_{cal} \geq t(n-2, 危険率)$ 相関有 (危険率: 5%)
 相関有項目数 8 10 11 11 11 10
 $|r| \geq 0.2$ 項目数 2 8 5 5 10 3

表8 各項目の相関係数

表8からわかる大きな傾向は、Writingが他のパートと比べて相関係数が高くなっている。つまり、Totalで高スコアをとった学生はWritingにおいてその心的状態が顕著に現れているということである。具体的なWritingに関する傾向を箇条書きにしてみる。

- Writingで「親しみのある」、「ためになる」、「直接的な」などと思っている学生と高スコアには高相関がある。
- WritingはReadingほど「社交的」という感じではない。
- Listeningに見られる「むずかしさ」、「だらけた」という負の相関はWritingでは見られない。
- 一般にWritingで有意性が認められるものは他のパートよりも高い値となっている。

Writingで高得点をとった学生は、単文レベルの基本文法などはしっかり頭に入っていて、コツさえつかめればある程度自分の好きなことを直接的に書けるというある意味安心感とか楽し

さというのがあるのかもしれない。基本文法を理解した上で、積極的に自分の言いたい事を自由に発信させるのは大きな動機付けになるのではないかと思う。WritingとTotalで高スコアをとった学生の、心的状況を加味しながら普通の授業の雰囲気づくり、教材作成に心がける必要性を感じている。結局のところ、文法等の基本的な知識と、発信させたいという気持ちが重ならなると有効なWritingにはならないということであろう。

6. まとめ

本稿では、GTECの結果を参考にしながら、授業改善の方向性について報告し、学生たちの意識調査に基づいた心的特徴について分析した。学習指導要領に定めるWritingの授業計画通りに進めるやり方では、体系的な基礎文法学習が不十分になったり、場面・目的の指導にまで十分な時間がかけられなかったりしていたが、今回体系的な文法学習という位置づけをおくことで、Writingの基礎となる知識を習得させることが、学生たちの意欲向上につながっている可能性について示唆した。近年の英語教育業界では、受験英語の功罪や英語嫌いが増えたなどの反省から、いわゆるコミュニケーション重視で文法項目の削除という方向性が進められている。このことは検定教科書の内容の変遷をみると明らかである。しかし、十分に有効なコミュニケーションのためには、基本文法の習得は不可欠であり、特に本校の様な英語の学習について十分な時間的環境的余裕のない高専では、学習指導要領の趣旨を弾力的に運用することが必要である。今回の取り組みはその意味でのケーススタディーと考えられる。

また、本稿はFDの観点から見ても一つの重要なケーススタディーを示している。つまり、担当教員外の客観的な絶対尺度に基づく能力測定により授業改善を行ったことである。授業改善において教員の心理で大きいのは学生による教員評価の部分であろうが、どれだけ実力がついたかも同じくらい重要なはずである。現状の小山高専の学生による授業評価では、授業の結果実力がついたかどうかは明らかにならない。

定期試験のスコアで証明することも可能ではあるのだが、結局担当教員の主観的基準に基づくものが多い。学生の中には、定期試験の結果よりも、TOEICやGTECの結果が重要であると思っていて、時々担当教員が行う個人面接等で「世間に評価された感じがする」と述べる学生もいる。同じ高得点でも担当教員が授業の中でつける得点とは重みが違うようだ。スコア返却の際も意外に真剣にデータを見ていて、Writing添削の様子もしっかり見ていて反省しているようだ。われわれ教員にとっても、外部評価と自分の試験の評価との傾向の違いなどを見る大切な機会にもなる。なにより教員サイドの一方的な「思い込み」を止める効果がある。

いづれにせよ本稿のような絶対的な尺度に基づいたアプローチが小山高専のほかの授業の授業改善にとってヒントとなることを期待する。

「受理年月日 2008年9月29日」

付録 ある検定教科書の授業計画

Part	Lesson	指導のポイント	文法・表現	授業 時数	
1	前見返し	友人への手紙の書き方	手紙や、封筒の上書きの書式に触れ、実際に英文で書かせる。	1	
	1	Kazuki Plays Soccer.	文の要素を理解させ、自分の学校やクラブについて英語で書かせる。	文の要素	2
	2	School Subjects	数の一致を理解させ、自分の勉強している科目について英語で書かせる。	数の一致	2
	3	Kazuki's Daily Schedule	現在形の性質を理解させ、自分の日課について英語で書かせる。	現在形	2
	4	From Kazuki's Diary	過去形の性質を理解させ、日記の形態に触れ、自分の日記を英語で書かせる。	過去形	2
	5	Yuka's Plans for the Weekend	未来を表す表現を学ばせ、週末の予定を英語で書かせる。	未来を表す 表現	2
	Writing Project 1	英語で文章を書くための 基礎	英語文・段落・文字といった英語で文章を書くための約束ごとを確認させ、英語で自己紹介文を書かせる。		1
	6	Volunteer Work	進行形の働きを理解させ、自分が経験したボランティア活動を英語で書かせる。	進行形	2
	7	Mark Has Arrived!	現在完了形の働きを理解させ、親友について英語で書かせる。	現在完了形	2
	8	A Welcome Party	過去完了形の働きを理解させ、最近あった楽しい出来事について英語で書かせる。	過去完了形	2
	9	Akira Had the Flu.	助動詞の意味を理解させ、病気の人へのアドバイスについての表現を学ばせ、英語で書かせる。	助動詞	2
	10	Yuka Was Worried about Akira.	態を理解させ、自分が心配していることについて英語で書かせる。	態	2
	Writing Project 2	句読法(1)	ピリオドとコンマの使い方を確認させる。		1
	11	The Rainy Season	不定詞の用法を理解させ、台風に対するアドバイスを英語で書かせる。	不定詞	2
	12	At the Beach	分詞の使い方を理解させ、自分の身の回りのことや、出来事を英語で書かせる。	分詞	2
	13	Mark's Letter	動名詞の使い方を理解させ、手紙の書き方に沿って、お世話になった人への手紙を英語で書かせる。	動名詞	2
	14	The Rock Concert	関係代名詞の使い方を理解させ、思い出に残った楽しいイベントなどを英語で書かせる。	関係代名詞 (制限用法)	2
	15	Stop Pollution	関係代名詞の非制限用法を理解させ、環境汚染や公害についての対策を英語で書かせる。	関係代名詞 (非制限用法)	2
	16	The Autumn Festival	関係副詞の用法を理解させ、四季の思い出について英語で書かせる。	関係副詞	2
	Writing Project 3	句読法(2)	疑問符・感嘆符・コロンの句読法について確認させる。		1
	17	Sports	様々なitの用法を理解させ、自分の好きなスポーツについて英語で書かせる。	itの用法	2
	18	Health	無生物主語・名詞構文の性質を理解させ、健康について心がけていることを英語で書かせる。	無生物主語・ 名詞構文	2
	19	IT	比較の用法を理解させ、ITについて触れ、自分の身の回りで便利だと思うことについて英語で書かせる。	比較	2
20	Think Globally, Act Locally.	仮定法の使い方を理解させ、平和について考えさせ、英語で書かせる。	仮定法	2	
Writing Project 4	パラグラフの構成方法	パラグラフの構成を学ばせる。		1	
Enjoy English!	Notice	英語で書かれた掲示の内容を理解させる。		1	
2	21	A Letter to the Host Family	願望の表現を学ばせ、手紙の書き方に触れ、手紙を英語で書かせる。	願望の表現	3
	22	Global Warming	目的・結果の表現を学ばせ、地球温暖化の話題に触れ、防止策を英語でまとめさせる。	目的・結果 の表現	3
	23	Culture Shock	原因・理由の表現を学ばせ、英文における因果関係を学ばせ、異文化体験を英語で書かせる。	原因・理由 の表現	3

付録 ある検定教科書の授業計画

Part	Lesson		指導のポイント	文法・表現	授業 時数
	Enjoy English!	Let's do a skit!	顔の表情やジェスチャーを見て英語のセリフを考えさせる。		1
	Enjoy English!	What is this in English?	カタカナ英語と実際の英語の違いを確認させる。		1
	24	Impressions on Japan	強調の表現を学ばせ、日本人の気質などについて考えさせ、英語で書かせる。	強調の表現	3
	25	E-mail from Australia	否定の表現を学ばせ、e-mailの書式に触れ、e-mailを英語で書かせる。	否定の表現	3
	26	Manga and Anime	例証の表現を学ばせ、英文における例証を学ばせ、自分の好きなマンガについて英語で書かせる。	例証の表現	3
	Enjoy English!	Let's use the Internet effectively.	インターネットで情報を集めさせ、英語でレポートを書かせる。		1
	27	Food - East and West	英文における対比や分類を学ばせ、日本の食習慣について英語で書かせる。	対比の表現	3
	28	A Town Learning from Tsunami Disasters	譲歩表現を学ばせ、現実との矛盾点を指摘させながら、津波の解決策を英語で書かせる。	譲歩の表現	3
	29	Etiquette	自分の意見を表す表現を学び、携帯電話の使用というテーマで英語を書かせる。	意見を表す表現	3
	30	History of Mobile Phones in Japan	時や順序の表現を学ばせ、時系列の英文を書かせる。	時・順序の表現	3
	Enjoy English!	Let's write a resume.	履歴書の内容を学ばせ、書かせる。		1
3	31	Recipes	料理のレシピの形態に触れ、レシピを英語で書かせる。		4
	32	Folk tales	物語の書き方に触れ、昔話の桃太郎を英語で書かせる。		4
	Skills 1	願望	願望についての様々な表現を学ばせる。	願 望	0
	Skills 2	目的・結果	目的・結果についての様々な表現を学ばせる。	目的・結果	0
	Skills 3	原因・理由	原因・理由についての様々な表現を学ばせる。	原因・理由	0
	Skills 4	強調	強調についての様々な表現を学ばせる。	強 調	0
	Skills 5	否定	否定についての様々な表現を学ばせる。	否 定	0
	Skills 6	譲歩	譲歩についての様々な表現を学ばせる。	譲 歩	0
	後見返し	Formal Letterの書き方	前見返しの手紙の書き方と比較させながら、Formalな手紙の書き方を学ばせる。		1
合計					89

